

作文

【小学校下学年の部】

最優秀賞

「おじいちゃんとぼく」

登米市立東郷小学校 一年 熊谷 晴真

ぼくのおじいちゃんは、ななじゅうさんさいです。おじいちゃんは、いつもうまくあるけません。つえをつかって、あります。おばあちゃんが、

「じいちゃんは、のうこうそくというびょうきになつたから、うまくあるけないんだよ。」

といつていました。だからぼくは、いつも、おじいちゃんのてつだいをします。あんないをしたり、つえをもつてきてあげたりします。こはんをたべているときに、おじいちゃんが、「ぎゅうにゅう、のみたいなあ。」

といふと、ぼくがぎゅうにゅうをついであげます。こはんをたべおわったあとは、くすりをもつてきてあげます。おじいちゃんは、ぼくに、

「はるまがいると、たすかるなあ。」

といいます。おばあちゃんと、おかあさんにも、いわれます。

ぼくは、とてもうれしいきもちになります。

ぼくのおじいちゃんは、いつしゅうかんによんかい、りはびりにいきます。あさに、りはびりのひとが、おじいちゃんをくるまでむかえにきます。そのときに、ぼくは、いつもりはびりのひとと、おはなしをします。がつこうのことや、てんきのことを行なします。おじいちゃんは、

「はるまがいると、にぎやかだなあ。」

といいます。りはびりのひとは、いつもやさしいので、すごいなあとおもいました。

ぼくのおにいちゃんも、おじいちゃんのてつだいをします。ぼくたちは、きょうだいでおじいちゃんをしてつだいます。

ぼくは、おじいちゃんやほかのかぞくがよろこぶとうれしいので、これからも、おじいちゃんのてつだいをしたいです。